

講演番号が入りますので、空欄にして下さい（インデント・タブ設定を変更しないで下さい）。

大気中親電子物質 1,2-ナフトキノンに対する細胞内活性イオン分子の防御的役割

○筑西 太郎¹, 下妻 花子¹, John May²
(¹つくば大・薬, ²常総大院・薬)

タイトルはゴシック体 (14 ポイント) でご作成下さい。英文字は **Helvetica** または **Arial** をご使用下さい。行間は 16 ポイントです。変更しないで下さい。

【目的】大気中親電子物質である 1,2-ナフトキノン (1,2-NQ) は細胞内において反応性システイン残基を有するセンサータンパク質と容易に共有結合を形成し、

【方法】ヒト気管上皮由来BEAS-2B細胞を用い、

【結果および考察】BEAS-2B細胞を1,2-NQに曝露した結果、

タイトル以外の所属・氏名および本文は、明朝体 (12 ポイント) でご作成下さい。英文字は **Times** ないし **Times New Roman** フォントをご使用下さい。行間は 14 ポイントになっています。変更しないで下さい。

Role of reactive sulfur species in protection against 1,2-naphthoquinone-induced cytotoxicity in human bronchial epithelial BEAS-2B cells

○Taro Chikusei¹, Hanako Shimotsuma¹, John May² (¹Fac. Pharmaceut. Sci., Tsukuba Univ., ²Grad. Sch. Pharmaceut. Sci., Joso Univ.)

1,2-naphthoquinone is an atmospheric electrophile-----